

令和8年度 社会福祉法人至誠会 事業計画

令和8年度を展望する

令和6年度は赤字決算であった。

赤字の理由は、デイサービス事業収入の減少と施設全体の人件費、事務費の増加であった。令和7年度は赤字を解消すべく、デイサービスの利用者増、入居部門の空床期間の短縮、人件費削減の3点につき各部署で努力してきた。

デイサービスではイベント日への臨時利用の声掛けによる利用者増を目指した。空床期間短縮については相談員が努力したが相手のあることであり、時に困難に直面した。人件費削減については清掃員の削減である程度の効果は得た。

そんな中、法人内部では長谷川事務長の志太会専属化と事務員一名の退職により事務部門の人手不足が急浮上してきた。介護を取り巻く環境は予断を許さない状態になっている。一つは物価上昇に伴う経費の増加であり、一つは人材不足である。至誠会の優秀な人材を確保し続けることと、人件費抑制の関係は慎重にならざるを得ない。

そこで令和8年3月から経営コンサルタントを入れて、職員が働きやすい環境づくりと健全経営の道を模索することにした。至誠会が末永く地域に貢献できるように「身の丈にあった適切な運営」を実現し、令和6年度の赤字を反省し令和7年度の努力を踏まえ令和8年度は「雨降って地固まる」を実現する予定である。

また、事務部門に限って言えば、突然の人手不足を乗り越え、より良いものを完成させなければならない状況である。今年度一年をかけて、将来人材をつくりクラウド利用による事務の効率化を図る予定である。「禍を転じて福と為す」覚悟が必要である。

理事長 三輪 誠

(1) 法人本部事業計画

- ① 基本理念
- ② 実践目標
- ③ 組織図
- ④ 委員会構成
- ⑤ 理事会・評議員会・監事
- ⑥ 行事・研修会・各種委員会など
- ⑦ ICT化の推進
- ⑧ ケアハウス事業と通所介護事業の交流推進
- ⑨ 地域貢献活動
- ⑩ 防災の取り組み
- ⑪ 研修計画
- ⑫ 広報活動
- ⑬ 志太会との連携
- ⑭ ケアハウス事業計画
- ⑮ 通所介護事業計画

「地域を支える、地域で看取る」

人は住み慣れた地域で、なじみの方々とともに最期まで暮らし続けることを望みます。三輪医院グループはそのために最大限の努力をします。

(福) 至誠会の理念

「ノーマライゼーション」

人は認知症などの障害を有しても、普通の暮らし、平穏な暮らしを営む権利があります。至誠会はその権利が損なわれないように最大限の援助をします。

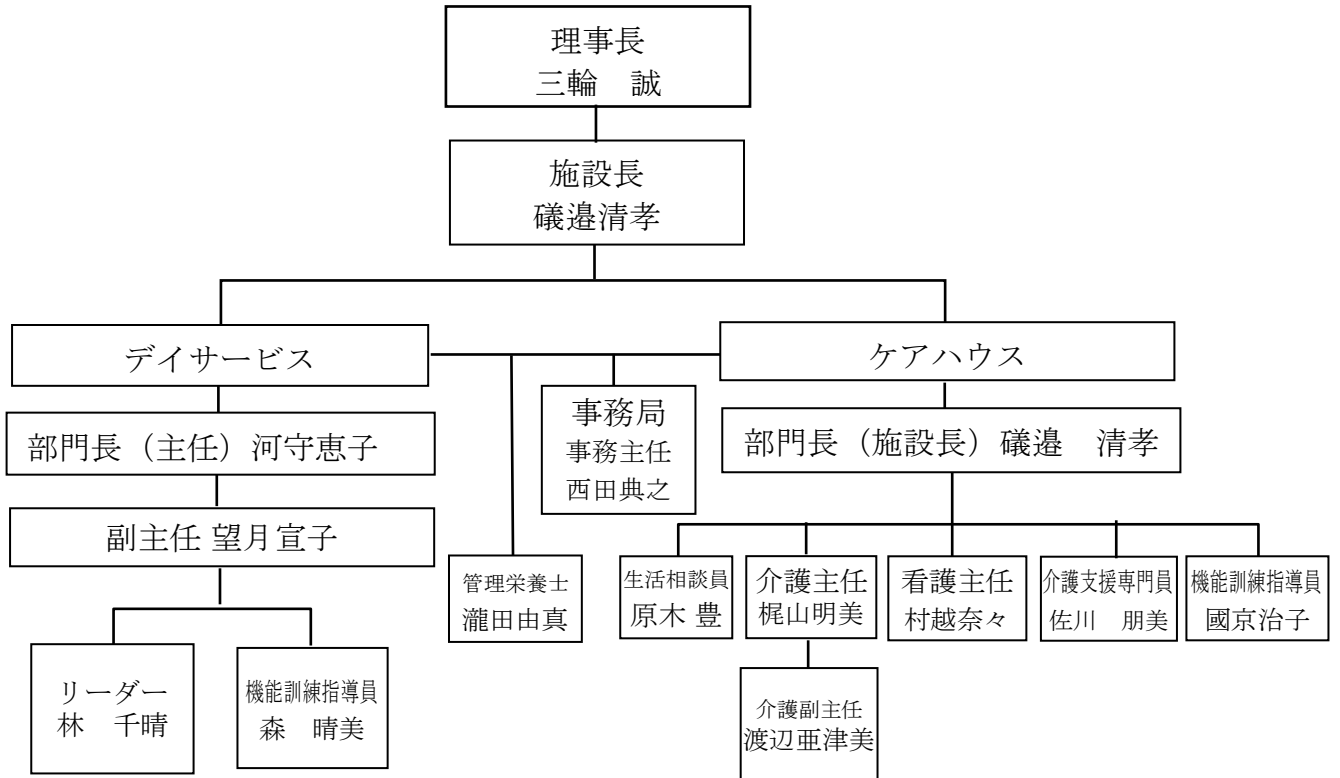
実践目標

ノーマライゼーションの理念に基づいて、医師が常駐しているという利点と、地域出身の利用者が多いという特徴を生かし、以下の3つの喜びを提供します。

- (1) 健康である喜び
- (2) 尊重される喜び
- (3) 動ける喜び

- * 健康管理と苦痛の除去(病気の早期発見、早期治療)
- * パーソンセンタードケアの実践(個性の尊重、人生の評価)
- * リハビリの実践(生活援助すべてをリハビリと考え、実践)

組織図



委員会構成

委員会	委員名
防災委員会	礒邊 渡辺 原木 杉本 河守 小沢 柳原 田平 瀧田
給食委員会	礒邊 河守 梶山 杉本 林
感染予防委員会	礒邊 河守 岩堀 諸星 村越(奈) 武藤
事故対策委員会 (身体拘束・虐待含む)	礒邊 河守 望月 片山 前嶋

理事・評議員・監事

理事長	三輪 誠	評議員	岡本 康雄
理事	長谷川 洋平	評議員	清水 章子
理事	西田 典之	評議員	大石 礼子
理事	河守 恵子	評議員	高塚 祐子
理事	礒邊 清孝	評議員	池上 守
理事	川村 豊伸	評議員	片山 敏
監事	一ツ田 良夫	評議員	松野 京子
監事	平野 仁		

令和8年度 年間予定

月	法人本部	ケアハウス	デイサービス
4		花見外出	14周年お祝いの会 桜・藤花見
5	監事監査 理事会（決算報告・事業報告）	防災訓練	バラ花見 新茶の会 部門内勉強会(入浴)
6	評議員会（定期総会） 新理事会	運動会	あじさい花見
		防災訓練（水害想定避難訓練）	
7			部門内勉強会(身体拘束・虐待)
8		七夕	七夕の会 納涼会
	防災訓練（消火訓練）		
9		敬老会	彼岸花花見 敬老会 認知症ケア事例検討会
10		秋祭り ふくし・かいご作品展	コスモス・菊花見 運動会
	総合防災訓練 感染予防講習会		
11		感染予防講習会	家族交流会 恵比寿講 紅葉見学 味噌作り 部門内勉強会(防災)
12	理事会（補正予算）	忘年会	忘年会
		防災訓練（情報伝達訓練）	
1		新年会	新年の会 部門内勉強会(入浴)
2		節分の会 炊き出し訓練(けんちん汁)	節分の会 梅・河津桜花見 認知症ケア事例検討会
3	理事会（最終補正予算・次年度予算・事業計画）	御花見 外食	木蓮花見 事故事例検討会
		防災訓練（消火訓練）	

通年実施事業

ケアハウス	デイサービス
<ul style="list-style-type: none"> ・売店の実施（毎週火曜日午後） ・園芸クラブ（不定期） 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児交流会 ・ケアカンファレンス・サービス担当者会議 ・クラブ活動（園芸・調理・作品・手芸・音楽・なごみ）・回想法 ・ボランティア受け入れ
事故対策委員会(身体拘束・虐待含む)・感染委員会・防災委員会・リハビリ会議・給食委員会(不定期) 3H リハ、デイケアと合同開催：通所会議	

<重点目標>

入院・長期離脱者の減少
重度者・看取り対応体制の強化
事故件数の前年比 10%削減
職員の定着率向上

<ICT 化の推進>

- ① 医療介護連携サービス「MeLL+」を活用しグループ内や法人内の情報共有を密に行う。
- ② 福祉機器の導入を検討し入居者、職員にとって安心、安全、負担の軽減に繋がるような環境整備に努める。

<ケアハウス事業と通所介護事業の交流推進>

- ① 介護・看護職員の交流
欠員時の相互補助を行い人員配置基準を確実に確保していく
- ② 設備面（機械浴槽・リハビリ室）における相互活用
ケアハウス入居者がデイサービスにある機械浴を活用、デイサービス利用者がケアハウスにあるリハビリ室を活用し多くの方々に設備を利用していただく

<地域貢献活動>

- ① NPO法人「やまぼうしクラブ」が主催する地域の方を対象とした催しへの参加・支援・協力
- ② 秋祭りの開催。入居者、ご家族、地域の方を対象としたお祭りを開催する
- ③ 介護人材の育成 学生の実習受け入れ施設として申請
 - ・静岡県社会福祉協議会教員免許取得のための「介護体験等」受け入れ
 - ・静岡県立短大より介護実習生の受け入れ
- ④ 岡部中学校より職場体験学習（5月）の受け入れ。介護の魅力、やりがい、楽しさを学んでいただく
- ⑤ 法人の Instagram を活用し、地域で開催されるイベントの告知や他施設の行事の宣伝、静岡県藤枝市（岡部町）の発信源になるような活動をしていく
- ⑥ 市民講座や出前講座等で介護の学びを提供していく

<防災の取り組み>

- ① 水防訓練（岡部聖母保育園と連携（園児避難受け入れ想定）も図る）に実施
- ② 地震・火災想定避難訓練（10月予定）
- ③ 消火訓練（年2回以上）参加者を入れ替えることで同一内容の訓練を複数回実施する
- ④ 部署ごとのグループ LINE や安否コールを活用し情報伝達訓練を行う事で緊急時に備える
- ⑤ 非常用自家発電機の設置。毎月行われる防災委員会内にて試運転を行い非常時に備え操作方法を学ぶ
- ⑥ 業務継続計画の周知。防災委員が中心となり、災害時の対応を周知徹底するための研修や訓練を計画、実践する。

<研修>

① 法人内で企画する研修

・「BCP」「身体拘束の廃止と予防推進」「感染予防講習会」「虐待防止」「褥瘡予防」「事故防止」「防災」等

② 外部研修

・静岡県老人福祉施設協議会・静岡県社会福祉協議会・静岡県介護福祉士会等が企画する研修案内を掲示し自主的な参加を促していくと同時に、職員の適正に合わせた研修参加も可能にしていく。
オンライン研修を有効に活用し学びの場を確保する。

<広報活動>

① Instagram を開設し全国約 3000 カ所の福祉施設を中心とした方々からフォローをいただいている。

入居者様の生活の様子、空室状況等を外部へ発信していき施設内の様子を外部に発信する

② 福祉研究大会へ参加し施設の取り組みを発表。自施設を知ってもらう事と、他施設との交流を図る場として参加をする。

③ 福祉相談会等へ参加しケアハウスみどりの風を知ってもらう事、将来的に就職へ結び付く活動として参加を検討していく。

④ 地域包括支援センターや藤枝、焼津の社会福祉協議会との連携を促進し、「特定施設」としての周知に 取り組み、待機者確保に努める。

<志太会（老健ユニケア岡部・通所リハビリ・居宅事業所・訪問看護）との連携>

① 空室状況の共有。空室を埋めるための情報共有を常に意識して稼働率を確保する。

② 通所会議：3時間リハビリ・デイケアと連携し、利用者様の状態に合った事業所利用について提案する

(2) ケアハウス事業計画

<実践目標と行動計画>

- 1 医師、看護師、機能訓練士、介護士が常駐し24時間体制で毎日の暮らしを支えている
- 2 「ノーマライゼーション」の理念のもと多くの入居者の生活を支え多くの方の最期を看取ることができている。一方、入居者の高齢化と認知症の進行により介護職員への負担も懸念される為、適宜入居者の居室移動も検討しながら手厚い支援を続けていく。
- 3 入居者の生活を守りご家族へ安心を提供していく為に出来ることを模索し続ける。
- 4 空室日数を10日以内と設定し新規待機者数を充実させる。

<健康管理と苦痛の除去>

- ① 医師が常駐している。定期診察・緊急時の往診・終末期の看取り医療など対応が可能
- ② 看護師からの正確な病状把握、スムーズな医師への報告
- ③ ミーティングでの医師との情報交換

<パーソンセンタードケアの実践>

- ① ケアカンファレンスの充実。施設ケアマネの進行によるケアプランに基づいた会議を毎月行う
- ② 現場職員が2階3階全体に関わることでチームケアの実践を行い専門性を駆使した個別ケアの実践を目指していく

<リハビリの実践>

- ① 集団と個別のリハビリを実践することで機能維持に努めていく。
集団体操は介護職員がサポートに入ることで継続的な活動の場を提供していく
- ② 新規や退院時の入居者受け入れの際、事前にデイサービスのリハビリ職員と連携を図り情報共有する
- ③ 3階リハビリ室の使用方法を管理し午前と夕方はケアハウス入居者、昼から夕方にかけて通所利用者にご利用いただく
- ④ 月末に行われる月1回のリハビリ会議に施設長、リハビリ部門長、デイサービス部門長、2人のリハビリ職が参加し部署を越えた情報共有と連携に繋げていく。

<感染症対策>

- ① 医師と連携し日頃から感染症に関する正しい知識と情報を把握。感染症発生時は初動対応を柔軟且つ迅速に行う。
- ② 静岡県の情報に基づきその都度面会や外出等の対応を検討しご家族へ報告する。
- ③ 感染症マニュアルに沿って日頃から予防に努め感染者発生時には迅速に対応。
感染委員会にてマニュアルの更新を適宜確実に実施する
- ④ 職員は施設に持ち込まない・入居者様に感染させないことを意識し入居者様の生活を守る
- ⑤ 2階・3階共に18室を2ゾーンに分け9名単位で生活し、日頃から感染の拡大を防止する

(3) 通所介護事業計画

<実践目標と行動計画>

- ① 14年目を迎えた今、地域の多くの皆様に「みどりの風」の存在を知っていただき、より深い信頼関係が広がっていることを実感している。
地域に寄り添い、地域を守る…更なる創意・工夫で「みどりの風で良かった!」「みどりの風なら!」と感じていただけるデイサービスへと成長していきたい。
- ② 期的な視点で「安定したデイサービスの運営」に取り組み、三輪医院グループの一つとして役割を果たしていく。

「サービスの更なる創意と工夫」

- 1) 「デイサービスご利用アンケート調査」「外部アンケート調査」を実施する。
- 2) アンケート結果を基にニーズを明確化し、求められている課題の整理・具体的な実践へと繋げていく。
- 3) 早番・遅番体制等の充実を図り、安心へと繋がるサービスの創生に努めていく。

「長期的視野での安定運営」

- 1) 一日の平均利用人数を33名とする。
- 2) 月間利用人数の目標を700名とし、ご本人の状態やご家族の都合に合わせた臨時利用や、受診・ショートステイによる欠席時の振替利用のアピールを積極的に行い、空席の有効利用に努めていく。
- 3) ケアマネ事業所を営業開拓し、新規利用者の獲得に努める。

「働きやすい職場環境づくり」

- 1) 入浴介助、認知症ケアなどの勉強会・事例検討会を開催し、介護の質を高める。
- 2) 危機管理対策(災害・感染症・事故等)の見直しや学びで理解を深め、実践へと繋げる。
- 3) デジタル環境の整理に取り組む。